

## ピアニストの健康エッセイ・6

### 子供と音楽・2

10数年前から地域の幼稚園、小・中学校でのピアノコンサートを続けていますが、時折子供たちの感想に驚かされることがあります。

モーツァルトのトルコ行進曲を聴いて「ピアノが囁いたり怒鳴ったりしていた」と表現する子、有名曲よりも初めて聴いたバッハの組曲に「ホッとして心が静まった」という子、ショパンのノクターンに「心に沁みて気持ちが良かった」「自分も弾いて表現したくなった」等々。

小さな子供であるからこそ、音楽の持つ喜怒哀楽やその表情に敏感なのでしょうか。

音楽が子供に与える影響は、専門家によってたくさんの報告がされています。

クラシック音楽でIQが高くなる、情緒が安定するなどに加え、南米のある国では、貧困層の子供たちに楽器を与えオーケストラを作り、音楽の力で子供を犯罪や麻薬から救う取り組みで良い結果を出している、という有名な話もあります。

では、子供のためにはとにかくクラシック音楽を聴かせればいいのでしょうか。

私が言うのも何ですが、クラシックだけにこだわる必要はないと思います。私自身、小さいころは童謡や歌謡曲を楽しみ、中学生の頃は海外のロック・グループに夢中になった時期もありました。成長の段階や個性に応じて、欲するリズムや音楽は違って当然です。

選択肢の一つとしてクラシック音楽もあれば、それで十分だと思います。

それよりもっと大切なことは、子供たちを無駄な音から守ることのように思えます。

外に出れば宣伝用の騒音が流れ、家の中でもつけっぱなしのテレビからCMソング、さらにゲームの電子音・・・と現代の子供たちは過剰な音にさらされています。

初めて聴くピアノの曲に、あれだけ繊細な感想を漏らす子供たちが、自ら望んでいない音を日常的に聞かされ、何の影響もないでしょうか。もし無意識のうちにストレスを蓄積しているとしたら、大変なこともかもしれません。

そのために、まずは毎日家庭の中で静寂の時間を意識して設けることをお勧めします。

その上で、本当に聴きたい音楽だけ流して下さい。

今どんな曲が聴きたいのかを問いかけるということは、子供の気持ちに向き合うことでもあるのですから。

丸山美由紀(ピアニスト・糸魚川市在住)